



『明蓮寺(桜町)の紅葉』川崙 照代 画

理念

- 安心・安全・やすらぎ・心のこもったサービスを提供します。
- 地域・住民・患者から評価・信頼される医療を提供します。
- 絶えざる改善と生涯教育を継続し、職員個々の能力を向上します。

運営方針

- 整形外科の専門病院として、良質の医療を提供できるように最善の努力をします。
- 患者、利用者の権利を尊重し、インフォームド・コンセント(説明・同意・納得)を含む安全管理を徹底します。
- 「医は仁ならざるの術、務めて仁をなさんと欲す」の精神を尊重します。
- 社会の変化にしなやかに対応しながら心技態を切磋琢磨し、全人間的な成長を目指します。
- 地域の皆様の健康と生命を守るために最善を尽くします。
- 職業を通じて地域社会に奉仕し、地域の社会的共通資本として認められるように努力します。
- 高齢化社会を迎え、安心・安全と心のこもった医療・介護を提供します。

国際潜水高気圧医学会に参加して

社会医療法人 玄真堂 川島整形外科病院

院長 川島 眞之



ウェルカムレセプション



電子化されたポスターセッション



学会会場ホテル前のアリーナにて

6月16日から18日にかけて国際潜水高気圧医学会 (Undersea & Hyperbaric Medical Society 2023 Annual Scientific Meeting : UHMS 2023ASM) がアメリカ・サンディエゴで開催され、川島理事長、宮田臨床工学技師と3人で参加しました。会場となったホテルは、私自身が15年ほど前に整形外科の学会でサンディエゴを訪れた際に宿泊した場所でもあり大変懐かしく思いました。COVID-19のパンデミックもあり、

私自身は2018年以来、5年ぶりのUHMS参加・渡米となりました。昨年もアメリカでの現地開催はされていましたが、まだ海外渡航は多くの国々で難しい状況だったと思いますので、海外からの参加者にとって今年がポストコロナ初の現地参加になったかと思えます。私達は1981年の開院以来、当院で治療を行ってきた減圧症患者618例についての調査結果および治療の結果報告を行ってきました。今回の興味深い発表の一つは、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎・クローン病）に対する高気圧酸素治療の適用についての講演であり、高気圧酸素治療の抗炎症作用により損傷粘膜の治癒促進が期待できること、また臨床応用していくた

めに今後、協働でエビデンスを確立していこうというものでした。類似するものとしては、整形外科領域では関節リウマチなどもあります。以前より理論的には何らかの効果があるかもしれないが、と漠然とは考えていました。もし炎症性腸疾患へのエビデンスが積み上がり適用されていくならば、新たな展開が開けるように思いました。また、整形外科関連では大腿骨頭壊死に対する高気圧酸素治療についての講演もありました。一般に阻血性壊死に陥ったものに対しては、なかなか高気圧酸素治療の効果は得られにくいようにも思われますが、もし初期の骨壊死において効果が得られるならば意義あるものと思われました。やはり今後のエビ

デンスの積み重ねが必要だと思います。サンディエゴはカリフォルニアの南でメキシコ国境に接する都市ですが、比較的乾燥した気候のた

め、日本のように蒸し暑くもなく、大変過ごしやすく思いました。アメリカ海軍の本拠地であるため、海辺には博物館となっている空母ジョージ・ワシントンの他、新旧多くの軍艦がみられ、またビーチも近くにある特徴的な雰囲気を持つ街でした。今回の訪問で驚いたことは、街でタクシーを見かけることがほぼなくなっていました。したがってもし出かけようとするとうーバーを使わないと出かけることができず、プロに劣らない。はじめは見知らぬ方の自家用車に乗せてもらうことに不安もありましたが、スマホ一つで簡単に利用でき、プロに劣らないドライバーの対応にいつしか快適に思うようになりました。日本でもタクシニアプリは普及してきていますが、特に労働者不足が加速する過疎地においてはウーバーが出現する日もそう遠くはないかもしれません。今回の学会では久々にUHMSのジョン・ピーター理事長や韓国の先生方とも交流することができ、来年6月に中津で私共が主催する予定となっている日本高気圧潜水医学会に参加いただけること、中津での再会を約束し帰路につきました。

骨髄炎治療を振り返って

社会医療法人 玄真堂 川島整形外科病院

回復期センター長 田村 裕昭



当院は1981年3月に理事長が19床のクリニックではじめて以来、42年を過ぎようとしています。現在では急性期病床63床、地域包括病床30床、回復期病床50床となり、他に老人保健施設のみ(50床)、サービスク付き高齢者住宅ひだまり(32部屋)、デイケア、デイサービス、訪問看護・リハ、ヘルパー支援、介護保険サービスセンターの介護相談業務など地域医療への貢献へ向け拡大し、日常診療や介護関連部門の充実に向けて現在も邁進中です。

私も、開院2年後に就任してから40年が経ちました。当院では毎月第3金曜日に、各医師がシニアセミナーとして全職員対象に専門分野を中心として交代で講義しています。今回は私の番で「骨髄炎治療を振り返って」のタイトルで話させてもらいましたが、こ

の紙面を借りて概略を説明させていただきます。

化膿性骨髄炎とは、骨髄を中心に骨皮質や骨膜にも細菌が感染して炎症を起こし、疼痛や排膿が起こるようになります。抗菌薬の発達や外傷初期治療の徹底により発症頻度は減少してきましたが、初期治療がうまくいかないと、細菌が長く骨髄内に残存し、病気が年単位に及ぶこともあり、いまだに整形外科医を悩ます難治の疾患の一つです。しかも、最近の傾向としては、有効な抗菌薬の少ないメチシリン耐性ブドウ球菌(MRSA)やバンコマイシン耐性腸球菌(VRE)などの多剤耐性菌の増加、日和見感染(免疫力が低下した方が、健康な方では問題とならないような病原体に感染することにより発症する感染症のこと)の骨髄炎の増加、人工関節の感染など病像が複雑化してきました。近年、MRSAは常在菌化し、検出された黄色ブドウ球菌中の60〜80%を占めると報告されています。

骨髄炎の発症原因としては、以前は外傷時に骨が露出した開放骨折や、外傷後の治療過

程のなかで発症することが多い傾向で、前任地の九州労災病院でも労災事故や交通事故などで発症した骨髄炎が随分多かつた印象です。川島理事長は骨髄炎治療にエネルギーを注ぎ、川島式持続洗浄チューブを考案し、治療に好成績を残してきました。また精力的に学会や論文で情報発信し、私もお手伝いしながら現在に至っています。その姿勢は当院開院後も続き、現在まで800例近い他に類を見ない多くの治療を経験してきました。日本全国や海外などから困って来院された多くの方々が含まれています。治療経過が長くなりがちで、私にも印象に残っている多くの患者さんがおられます。

特に初期に印象深かったのは60代のH・T氏で、私が労災病院勤務の数年前から手術後も大腿や下腿の瘻孔からの排膿が続き、大腿骨骨折の骨癒合が不十分な状態でした。その後骨接合を受け何とか骨癒合しましたが、私が担当になったのは理事長が辞められた後でしたが、抜釘術後に持

続洗浄チューブと患部の接続部からの洗浄液の漏れが続き不快な思いが続くことになりました。持続洗浄療法の難点としては、洗浄液を持続的に流すので、骨から出血し貧血が進行することがありますが、H・T氏も貧血が強くなり輸血を勧めましたが、過去に肝炎の既往があり「私は頑張ります」ときつい状況に弱音を吐かず耐えられました。その後瘻孔が再燃し、約半年後に再持続洗浄手術を行い、私が労災病院を辞める1か月前に「先生もう一度手術をお願いします」とむしろ私を励ますように述べられ、さらに手術し、その後ようやく瘻孔は閉鎖しました。長い治療期間にもかかわらず、治療への不満は一切言わず、終始笑顔を絶やさず穏やかな会話で接していただきました。その後退院され、T杖で歩行されて当院の骨髄炎友の会でお会いできた時は、医療の基本である相互の信頼関係と、最後まで諦めずに治療への意欲を持ち続けることの重要性を教えてください、骨髄炎患者さんと接すること

に思い出しています。骨髄炎治療で手術や抗菌薬

投与などに続いて重要なのは高気圧酸素治療です。高気圧治療装置の中で2気圧に加圧し純酸素を吸入すると、体内

の酸素分圧が正常の10倍近くに上昇します。低酸素状態に陥った骨や軟部組織に高濃度の酸素が供給されるので、組織の修復を促進することになります。また、高圧下の酸素は白血球の殺菌作用の亢進、抗菌薬の効果増強、骨形成の促進などの効果があるため、骨髄炎

に有効に作用します。骨髄炎の発症後や、慢性期の治療促進目的で1日1回30回を1クールとし、治療効果を確認しながら継続します。

海外では以前から認められていましたが、現在は我が国でも保険採用もされ市民権を得ている治療法になりましたが、当院も率先して活用してきたと思っております。

図1



図1

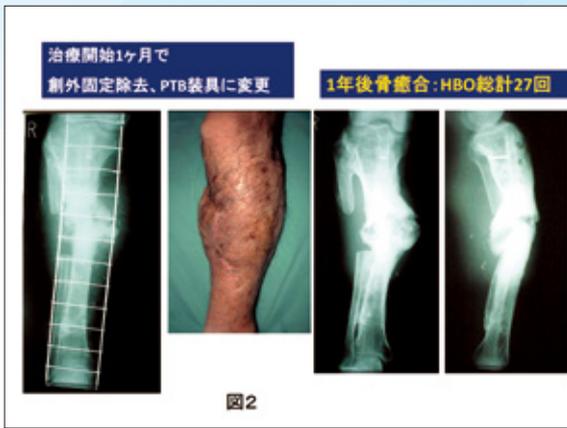


図2



図3



図4

5年前の交通事故で下腿の開放骨折で治療を受けま

た初期の例は、東京から当院を紹介された23歳の男性です。

特に高気圧酸素治療が有効と感じた初期の例は、東京から当院を紹介された23歳の男性です。

海外では以前から認められていましたが、現在は我が国でも保険採用もされ市民権を得ている治療法になりましたが、当院も率先して活用してきたと思っております。

入院時、炎症反応も強かったのですが、抗菌薬の点滴と高気圧酸素治療を開始したところ、3週間で瘻孔は閉鎖し炎症反応も著明に改善し、この時点で骨癒合はまだでした。創外固定を除去し、下腿装具を装着し、計26回の高気圧酸素治療で退院しました。退院後は定期的に来院していたが経過観察しましたが、骨髄炎の再燃はなく、徐々に骨癒合が進み、1年半後には手術することなく治癒しました(図2)。高気圧酸素治療の効果を強く感じた次第です。

閉鎖し、母趾基節骨と中足骨は修復・骨形成が促進し(図4)、約1年で治療が終了しました。2例の経験は、その後の高気圧酸素治療を続けていく勇氣をもらいました。

次の例は、糖尿病で母趾に骨髄炎を合併し、瘻孔からのMRSAの排膿と母趾基節骨と中足骨の骨吸収・破壊が強くあり、切断も検討が必要かと思われた69歳の男性です。創の管理と高気圧酸素治療を開始しましたが、切断は固辞され、退院後は通院で創処置、高気圧酸素治療をしていましたが(図3)、約1年で瘻孔は

高気圧酸素治療開始により、多くの例で腫脹や排膿の減少が得られるので、患者さん自身も毎日治療に参加しているとの意識を持って、治療に対する意欲の向上に繋がっているようです。

骨髄炎の専門病院としてのスタートでしたが、現在の医療は専門性が高くなり、当院でも一般外傷は勿論のこと、骨関節感染症、膝、肩、手の外科、脊椎、人工関節、リウマチなどそれぞれの医師の専門性を追求しながら診療にあたっています。

骨髄炎治療を振り返ってみて、まだまだ印象深い患者さんは多いのですが、骨髄炎は多数回の手術が必要になる場合も多く、治療経過も長く心理的に不安定になることもありますが、治療方針を明確に説明し、治療に対する理解と意欲を持っていただいて治療に向かい合うことが必要だと思います。



去る6月16、18日、米国カリフォルニア州サンディエゴにて開かれた国際潜水・高気圧環境医学学会に出席したの報告する。

このサンディエゴは私環境にあって思い出深い所であり、1975年、私が高気圧出席初めてこの学会に出席したことから、毎年のように金米を巡ってこの学会国際潜水に参加するように国際医学



川島 真人

本における潜水学および高気圧医療がまたまた進んでいることに気が付き、何とか国際水準までに日本の高気圧・潜水学会のレベルを高めたいと思った。当時は潜水病、一酸化炭素中毒しか適用がなかった日本の高気圧治療だったが、骨髄炎、圧挫症候群、ガス壊疽、

コンパートメント症候群、脊髄神経疾患など整形外科領域においても次第に適用が広がった。現在では米国同様に約20の適応症が存在するに至っている。何とかこの適用を日本に取り入れるように努力している中で日本の学会の代表理事に選ばれ、国際潜水・高気圧環境医学学会から大要名譽ある学術賞を2度も頂くという栄誉を賜った。7年前からは学術賞を出す側に立つたかどうかと学会の理事長に背中を押され、五つの学術賞の一つである「若い研究者を励ます学術賞」を授与することになり、今回で5回目である。恒例のあいさつをした後、しの笛にて「竹田の子守唄」を演奏したところ、万雷の拍手を浴びた。

(川島整形外科病院理事長・中津市)



私が主宰する「中津一節截の会」(伊藤正敬師範)は7月22、23の両日、恒例の夏季合宿を宇佐市麻生の「禅源寺」(麻生直幸住職)で今年も実施した。

私たちは2018年に会は中津市で「第3回一節截全国大会」を開催し、全国の一節截の愛好家や一節截指導者が中津に集まっ津夏季一節截は、飛鳥、奈良、平安時代へと引き継がれてきた尺八を原型として、鎌倉時代から室町、安土桃山、さらには江戸時代の元禄ころまで盛んに吹かれていた。



川島 真人

皇の皇子で征西大將軍の懐良(かねよし)、またはかねなが)親王が愛用し、江戸後期では「解体新書」の翻訳者・中津藩医の前野良沢が愛用したことで知られている。懐良親王の九州上陸の地といわれる場所は九州各地にあるが、宇佐神宮には重要文化財に指定されている「懐良親王奉納の剣」がある。宇佐市柳ヶ浦の神子山新田と称する現在の貴船神社が上陸の地といわれている。私たちは帰路、ここに立ち寄り一節截の演奏でしばし往時をしめた。神社の説明板の前では宇佐市観光ガイドの松本明子氏による解説が行われた。その後、天津地区にある南朝方といわれる墓地でも演奏を行った。

(川島整形外科病院理事長・中津市)

大分合同新聞 2023年(令和5年)8月18日(金曜日)

大分合同新聞 2023年(令和5年)7月14日(金曜日)

おつかれさまでした!

退任のご挨拶



医師 須賀 国広

つい先日、新任のご挨拶を申し上げたところですが、いつの間にか異動の時期となっていました。もともと半年の予定ではありましたが、こんなにも早く時間がたってしまおうとは思いませんでした。

私はこれまで大学病院やがん専門病院での整形外科勤務でしたので、川島整形外科病院のよくな地域のみなさまに支えられている地域医療主体の病院で働くのは初めてでした。整形外科単科病院でありながら、高気圧酸素治療も行える施設を持って

おり、一般的なものから特殊なものまで様々な疾患、病態に対し仕事ができたと経験は、これからの整形外科医としての人生で大きな意味をもっていると思います。私の所属医局では関東での勤務が中心となるため、中津を中心に九州の土地柄を感じながら仕事をした経験は他では得られないものとなったと感じています。

次は埼玉県の総合病院での勤務となります。当院とは異なり整形外科の中でも背椎外科に特化した病院です。これからも精進して参ります。みなさまにまたお会いする機会がありましたら、どうぞよろしくお願いいたします。



横田慎太郎という プロ野球選手がいました

副院長 古江 幸博

2023年7月18日、元阪神タイガースの横田慎太郎君が亡くなりました。28歳の若さでした。

叶わず、2019年9月26日、奇跡のバックホームと称されるプレーを最後にユニフォームを脱ぎました。

2013年、鹿児島実業からドラフト2位で入団し、攻走守三拍子揃った大型外野手として将来の主軸を期待されました。しかし、

野球がすべてだった。野球が上手くなりたい、という思いだけで生き抜いた人生。

大きな飛躍の年となるはずの2017年のキャンプ中、眼の不調と頭痛で突然の離脱、病院で告げられた診断は「脳腫瘍」でした。

きつと今でもバットを抱いて寝ているのでしょう。往年の名選手達に「よこ！よこ！」とかわいながられていることでしょうか。

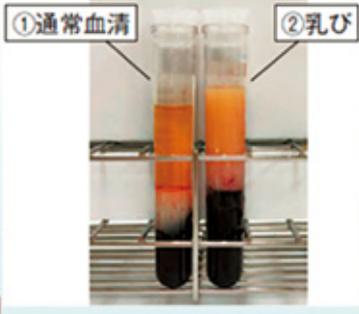
不屈不撓の魂で2度の大手術や過酷な闘病を乗り越え、2018年の安芸には育成契約となった背番号「124」の姿がありました。

「奇跡のバックホーム」という書籍が発刊されています。是非、手に取ってみて下さい。

「124」の姿がありました。以前と変わらず必死にボールを追いバットを振り続けましたが、眼の回復は

食事の影響 高脂肪食

- 中性脂肪(TG)、コレステロール(T-CHO)が上昇する
- 食後4~6時間でピーク
- 「乳び(白く濁る)」が影響する検査項目がある
(蛋白、アルブミン、ビリルビン、CK、CRP、PT、APTT、など)



食後12時間以上絶食後
前日の高脂肪食は避ける

健康診断について

検査科 茂呂田 裕子

健康診断の目的は、病気の早期発見・治療です。最近では、生活習慣病の予防のためにも健康診断が重要な役割をはたしています。生活習慣病には高血圧、高脂血症、糖尿病などがあります。今回は、高脂血症にも関係がある「乳び」について説明します。

健康診断の結果で気になるのが、脂質項目だと思いませんか。血糖値のように中性脂肪やコレステロールも食事の影響を大きく反映します。中性脂肪やコレステロールは食後4時間、6時間が最も血中の数値が高く、その後、6時間位かけて徐々に血中の数値が下がります。

上記の写真にあるように食後に時間を置かずに採血した場合、血中に脂肪が余り分解されずに残るため、血清が乳白色になります。このことを「乳び」と言います。「乳び」は、健康な人にも見られますが「高脂血症」の可能性もあります。

当院の検査報告書にも「乳び」の記載がありますので、採血した結果が返ってきた際には「乳び」を確認して見てください。





今年の夏の暑やごついて

事務局総務部 副主任 瀬口 清美



皆様！『気候変動』という言葉を改めて自分の近く感じた夏ではなかったでしょうか？

平均気温の上昇、海面水温の上昇、夏の期間が長くなる、海水がなくなる、激しい雨や大型台風の出現など、気候変動がおこります！みなさん一人一人の協力が必要です！

私が小学生の頃は、夏の最高気温が32度で今日は真夏日です！とニュースで言っていたことを思い出します。現在の外の暑さは尋常ではなく、最近では首にかけるネッククーラーや空調服など様々な体を冷やす商品が発売されていることもその表れではないでしょうか。

8月8日に発生したハワイのマウイ島での山火事も、極度の乾燥とハリケーンの強風で、あれほどの被害になったと考えられるということでした。北京でも連日40度超えの猛暑だそうです。

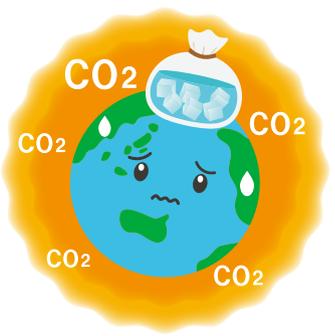
と勘違いしている。人間の力は自然界の力の一部に過ぎないという心が必要だと説いていたそうです。先人たちの警告や警鐘を無視し、そんなことは自分達の身におこるはずがないという正常性バイアスが働いてしまっている世界中の人類が、本気で地球の環境問題に取り組み大きなきつかけになった夏であってほしいと心から願います。

前野良沢は、「人間が自然界の一部を支配することが出て来ると非常に傲慢になって独力で文明を築いた

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

と言われ始めてからどれくらいたったでしょうか。なんと1985年、今から38年前から二酸化炭素による地球温暖化の問題が大きくなり上げられるようになったそうです。

と言われ始めてからどれくらいたったでしょうか。なんと1985年、今から38年前から二酸化炭素による地球温暖化の問題が大きくなり上げられるようになったそうです。



祝金メダル獲得

回復期リハビリテーション病棟看護師の平山可南子さんが、第76回県民スポーツ大会自転車ロードレース女子(12キロ)の部において金メダルを獲得しました。おめでとうございます！



どしゃぶりの中の温かい出来事

8月24日、雷と大雨のなか、わっせわっせとお仕事をしていると…S師長から事務局へ1本の電話が入りました。

「おっきな犬が川に流されてる!!」「な、なんと!」現場に駆け付けると、病院横の自見川にグレートピレニーズというものすごく大きな犬があわあわとおぼれているではありませんか!

「僕が行きます!」事務局きつての犬好きK君とS師長が躊躇せず濁流の川へ。ずぶ濡れ泥だらけになりながら、見事ワンちゃん(女の子)を助けることができました。

風の噂でワンちゃんはお家に無事戻ったそうです。よかったあ。



一年の計は元旦にあり

～年末年始の食生活について考えよう～

栄養管理科 別府 杏聖



食生活が乱れがちな年末年始。健康的に新年をスタートするための豆知識をお伝えします。

食事を賢く食べる

カロリーや塩分が高い料理が多いため、食べ方を工夫しましょう

年越しそば

- 夕食までの時間に食べる
- 栄養バランスを考慮しながら小鉢やトッピングを工夫する
- 天ぷらなど高カロリーなトッピングに注意する

雑煮

- 1食分の餅は2個を目安にする
- 野菜、肉、魚などを入れて栄養バランスを整える

おせち料理

- できるだけ家庭で手作りし薄味を心がける
- 始めに食べる分だけを小皿に取り過食を防ぐ

鍋料理は食材の組み合わせ次第で不足した栄養素を補うことができます。食生活の乱れが気になる場合に活用しましょう。



間食は最小限にする

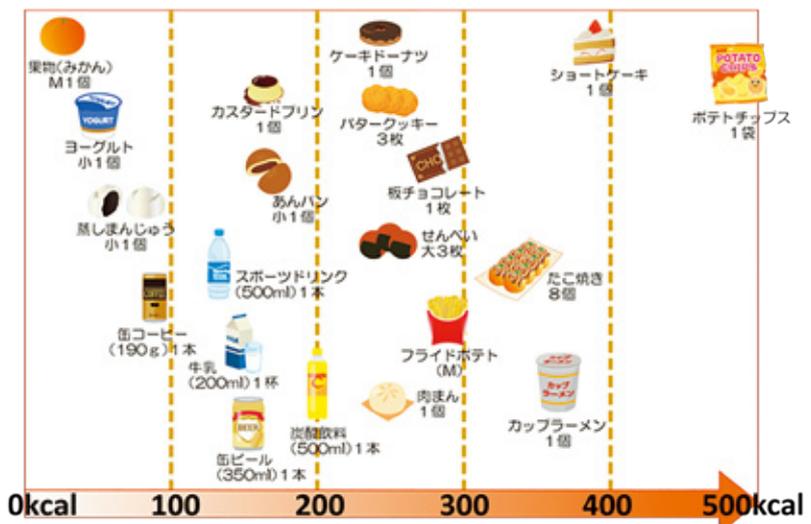
お菓子に限らず
果物も糖分が多いため、
食べる量に注意しましょう

- 果物は輪の中に入る量を1日の目安にする



- お菓子は栄養成分表示を参考に量を決める（1日100kcal程度）

買い置きは過食の原因となるため必要な分だけ購入しましょう



厚生労働省 生活習慣病予防のための健康情報サイトより引用

お酒と上手に付き合う

飲み方を見直し、適量を心がけましょう

- 食事と一緒に適量をゆっくり飲む
- ノンアルコール飲料を活用する
- 休肝日をつくる
- つまみは低カロリーなものを選ぶ

刺身や枝豆など、たんぱく質やビタミンが摂れるものがオススメです

1日の飲酒量の目安



※上の量(女性はその半分)を超えないように注意

全国健康保険協会より引用

職員旅行を通して

4階病棟看護師 沖本 瑠星

社会医療法人玄真堂職員42名で9月17日、18日に職員旅行を行いました。今回の旅行はいつもと異なり、朝からの出発で宮崎県フェニックス・シーガイアへと向かいました。宮崎は南国の世界でとても暑い環境であり、熱中症になるスタッフもいました。夜はシーガイアホテルにて宴会を行い、抽選会やジャンケン大会は大盛り上がりでした。今回もコロナ感染することなく、職員旅行を通して他職種のスタッフと交流することができ、親睦を深めることが出来ました。



Ohana ～お花～



週1回、クリニック外来の診察室前と、玄関正面に切り花を飾っています。一つは一輪ざし。月曜日に花を交換して、毎日水切り。時には患者さまから「素敵な花ですね」「何の花ですか」「来るときにどんな花が楽しみにしています」等のお声をいただき、飾っている私も元気をいただきます。

お花には「気持ちを癒す効果」「雰囲気明るくする効果」「生気を与える効果」など様々な力があります。痛みやご不自由を感じて来院されている患者さまに、ほんの少しでも癒しを提供できればと思います。

看護部 部長 杉本 美代

私は、ZENKAI (禅海) 太鼓「和」というチームに所属しています。本耶馬溪を拠点に、地域の伝統継承を目的として様々な場所で演奏しています。2011年には第13回日本太鼓ジュニアコンクールにおいて優勝、日本一になりました。チームに所属して14年目になりますが、活動の中で太鼓だけでなく、挨拶や礼儀などの大切さも学ぶことができました。これからも演奏を通して、地域の方との繋がりを大切に、活動を続けていきたいです。機会があればぜひ見に来ていただけると幸いです。

和太鼓でつながる 地域の方とのつながり

4階病棟看護師 谷 京香



2023.8.18

骨髄炎治療を振り返って

田村回復期センター長

カワシマハンドセラピー研究会

2023.6.19

「症例報告」

岸本リハビリテーション部副主任・加藤作業療法士

「骨性、腱性マレットについて」

加藤作業療法士

2023.7.24

「症例報告」

岸本リハビリテーション部副主任・阿部作業療法士

「超音波療法」

永田作業療法士

2023.8.21

「Hand surgery Hand therapy 200th Anniversary!」

古江副院長

川島肩をカタらう会

2023.6.26

「外傷性肩関節不安定症」

羽田見奈理学療法士

2023.7.31

「投球骨折の概要」

馬場理学療法士

2023.8.28

「鎖骨骨折」

川野理学療法士

膝関節勉強会

2023.6.14

「高位脛骨骨切術後の症例について」

瀬戸理学療法士

2023.7.12

「円板状半月板について」

吉田理学療法士

2023.8.9

「extension lag」

吉野理学療法士

看護部勉強会

2023.6

実習指導者学習会

2023.7

卒後2・3年目継続教育 看護倫理学習会

2023.8

医療ガス・医療機器の取り扱い研修会

院外発表・講演

2023.5.17

令和5年度 短期専門講習（法定研修）（大分市）

「介護現場で求められる記録」

沖本介護老人保健施設なのみ副施設長講義

2023.5.27

令和5年度 公認スクーバ・ダイビング指導員研修会

（福岡市）

「減圧症と安全管理」

川島理事長講義

2023.6.11

中津地方文化財協議会

（中津市）

「解剖の歴史と前野良沢、田原淳」

川島理事長講演

2023.6.16～18

Undersea & Hyperbaric Medical Society (UHMS)

ASM 2023

（San Diego）

「Treatment of decompression sickness at

Kawashima Orthopaedic Hospital」

川島院長発表

2023.6.23～24

第46回日本骨・関節感染症学会

（津市）

「一般演題8 症例」

川島院長座長

2023.7.14

豊の国文化財マスターガイド養成講座

（中津市）

「村上医家史料館と大江医家史料館」

川島理事長講演

2023.8.24

第10回地域看・看連携の会

（吉富町）

「強直性ジストロフィーを疾患に持つ利用者へ複数ス

テーションが関わるメリット」

眞邊在宅事業部看護師発表

2023.8.26

第23回九州高気圧環境医学会

（熊本市）

「外傷後Aeromonas hydrophila創部感染に対して高気

圧酸素治療を施行し良好な予後を得た1例」

山口高気圧治療科統括科長発表

院内勉強会

モーニングセミナー

2023.6.23

大腿骨インプラント周囲骨折の手術・麻酔・経過

原西麻酔科部長

2023.7.21

日本整形外科学会参加報告

川島理事長・佐々木診療部長

2023.6.6

PLUTOコーホートにおける半月と軟骨損傷との関連因子

本山副院長

2023.6.13

肘頭骨折に対するHTBW法

古江副院長

2023.6.27

壊死性軟部組織感染症の臨床転帰における高気圧酸素治療の効果：システマティックレビューおよびメタアナリシス

川島院長

2023.7.4

大腿骨頸部骨折に対する人工股関節全置換術及び人工骨頭置換術の効果の比較

佐々木診療部長

2023.7.11

手の内軟骨腫に対し鏡視下手術を行い人工骨もしくは自家骨移植を行った症例の臨床・放射線評価—7年の症例検討と文献レビュー—

後藤診療副部長

2023.7.25

保存加療された成人発症の急性腰椎分離症の特性

須賀医師

2023.8.1

前十字靭帯再建術の初回と再再建における患者報告アウトカム、筋力、機能的パフォーマンスの比較

本山副院長

2023.8.8

指骨骨折に対するキルシュナー鋼線の固定性

古江副院長

2023.8.22

Streptococcus agalactiae 敗血症性関節炎と非Streptococcus agalactiae 敗血症性関節炎の比較

川島院長

2023.8.29

腱板修復のない石灰性腱炎の関節鏡視下除圧術

佐々木診療部長

論文（共同含）・誌上発表

- 川島真人：医学史から見た田原淳，中津市医師会会報，66：54-63，2023
- 川島真人：整形外科的感染症の源流，97(5)：407-416，2023
- 川島真人：会長挨拶，会報 第59号 三毛の文化：1-2，2023
- 川島真人：日露戦争ゆかりの松山市を訪ねて ～戦争と平和について～ 令和5年1月8日講演，会報 第59号 三毛の文化：69-71，2023
- 川島真人：大分県病院協会創立70周年を迎えて，創立70周年記念誌：6-7，2023

マイナナンバーカードの 健康保険証利用について



川島整形外科病院・かわしまクリニックでは、1階受付カウンターに顔認証機能付きカードリーダーを設置し、マイナンバーカードを保険証としてご利用できるようになりました。マイナンバーカードの利用で医療保険の資格確認のほか、限度額適応認定証も事前申請・提出が不要となり、受付窓口での手続きがスムーズになります。

ご利用いただく際は、事前

に患者様ご自身でマイナンバーカードのオンライン資格利用申請の必要がございますので、ご注意ください。

また、マイナンバーカードをお持ちでない患者様は従来通り健康保険証を使った受診も可能です。

顔認証機能付きカードリーダーの使い方などご不明な点がございましたら、お気軽に受付スタッフへお声かけください。



編集後記

読書の秋、スポーツの秋、文化の秋、食欲の秋と、燃えるような暑さから解放されたこの季節、皆様はどのような秋をお過ごしでしょうか。

私は高く澄んだ秋の空を眺めるのが大好きです。この過ごしやすいや季節に体調を整え、体力、免疫力、抵抗力をつけ、またやって来る寒い冬へと少しづつ準備をしたいと思います。

Y・M

【患者様の権利と患者様の責務】

患者様は、個人としての尊厳が守られ、平等で最善の医療を受ける権利を有するとともに、医療を効果的にするために守って頂きたい事項があります。

〔患者様の権利〕

1. 病気の種類や個人的背景に関係なく、平等に医療を受ける権利があります。
2. 人格は尊重され、医療提供者との相互協力関係のもとで最善の医療を受ける権利があります。
3. 医療に関して十分な説明、情報を求める権利があります。
4. 医療内容について自分で選択し決定する権利があります。
5. 自己の意思に反する医療を拒否する権利があります。
6. 自己の診療記録の開示を求める権利があります。
7. プライバシーや個人情報を保護される権利があります。
8. 健康維持のため教育やサービスを受ける権利があります。
9. 安全を確保される権利があります。

〔患者様の責務〕

1. 医療提供者に対し、患者様ご自身の健康に関する情報の提供
2. 他の患者様の療養生活に支障を与えない配慮
3. 早期回復の為、医療提供者が定めた規則の遵守
4. 円滑な医療行為の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
5. 早期回復の為の、患者様・ご家族の積極的な医療への参加
6. 診療費の遅滞ない支払い